

課題対応取組報告書

【共通】

名称	西成区東部地域包括支援センター					
提出日	令和	7	年	6	月	13 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等			
活動テーマ	気になる高齢者世帯への多職種連携支援と楽しみや期待の持てる取り組みの継続				
地域ケア会議から 見えてきた課題	・担当圏域は、身寄りのない一人暮らしの高齢者の相談が多く、認知症や精神状態の悪化、意欲喪失（セルフネグレクト）による、近隣や関係機関からの相談が増えてきている。 ・金銭管理が出来ず、光熱費や家賃の滞納、保護費や年金が入るまでに食事が摂れないという方も多く、管理会社等に不適切に金銭管理をされていたりと、経済面における問題が顕在化している。 ・権利擁護の意識が低く複雑化してしまっていることもあり、あんしんさぼーとや成年後見制度の活用の周知が必須と考え、「権利擁護漫才」を地域の住民向けに「出張フリースクール」として行った。				
対象	地域住民（高齢者に限らず、介護の担い手や子どもたち）民生委員、ネットワーク委員、専門職機関（オレンジチーム、生活コーディネーター、見守り相談室、区保健師、区精神保険福祉士、ケースワーカー、在宅医療介護連携相談室、障がい者基幹支援センター、ランチ他）				
地域特性	・地域との関係が希薄、権利擁護や病識の意識も低いうえキーパーソンとなる方がおらず介入が困難なケースも多くなっている。 ・一人暮らしの高齢者が多く、生活保護受給率も高い。 ・地域の関係者の高齢化が進む中、行事も活発な地域もあり、「ポツチャ」人気が高まり各地域で行っている。				
活動目標	・地域と専門職とのつながりを深めることで「早期発見、早期介入」を実現し、事態が重篤化するまでに解決に導く。 ・一人の方の支援に必要な専門職との連携に努め、「誰も孤独にしない」支援を心がける。 ・「楽しみや期待が持てる」行事を計画し、「地域の一員」としていきいきと暮らしていけるようサポートしていく。				
活動内容 (具体的取組)	・地域住民へ（高齢者に限らず、介護の担い手や子どもの世代も含む）認知症の予防や、権利擁護の視点を学んでもらい、あんしんさぼーとや成年後見人制度をわかりやすく周知してもらえるよう「権利擁護漫才」を実施した。 ・大阪府がワースト1になっている、特殊詐欺の被害に遭わないように、食費者のサポーターを包括スタッフが受講し、講師として「出張フリースクール」を地域別に開催した。 ・圏域を超え、多くの高齢者に楽しんで学んでいただく「東部包括フリースクール」を年10回実施した。 ・地域包括支援センター主催の「ポツチャ大会」を年2回（5月、10月）に行った。 ・喫茶「よってこ」は、日曜日の午前中に開店し、年10回継続開催した。				
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・「高齢者が消費者被害に遭わないために」の講座と「権利擁護漫才」を同時開催し、地域住民に披露した。高齢者だけでなく、地域の介護事業所や子どもセンターの参加もあり、笑いと学びを共有でき、世代間交流にも繋がった。 ・「東部包括フリースクール」は、圏域を超えた高齢者が参加され、希望やニーズに合わせた講義を行った。また、ポツチャでは横のつながりが出来、楽しみが広がり、平均30名以上の参加がある。 ・地域の協力を得て、旧小学校の体育館で、地域包括支援センター主催の「ポツチャ大会」を2回開催し、大いに盛り上がり、賞状授与の際には、互いをたたえ合う一体感が生まれた。 ・喫茶「よってこ」は日曜日のランチとして「麺」提供を始めたところ、常時50人以上の参加があり会話が弾んでいる。				
今後の課題	・困難なケースには「早期発見、早期介入」できるよう、地域に「気づき」の輪を広げ、専門職に繋げて行けるよう周知活動を継続し、重篤化を防ぐよう努めていく事が重要。 ・「認知症になっても安心して暮らせる地域」を目指すためにも、権利擁護の視点を意識して頂けるような取り組みや活動を、高齢者に限らず、介護を担う世代や子ども達にもわかりやすい周知活動を続けていき、「誰もが安心して暮らせる地域」を目指していくことを努める。 ・本人、家族、支援者を孤独にさせないよう、些細なことから相談してもらえるような関係づくりを心がける。				
※以下は、区運営協議会事務局にて記入					
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 7 年 7 月 16 日 (水)				
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性				
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見を記載	地域との関係が希薄で身寄りのない高齢者が増える中、「東部包括フリースクール」や「喫茶よってこ」は、楽しみを持てる取組みがされており参加者数も多い。地域住民に権利擁護漫才を披露し、制度理解や世代間交流を深めており高く評価できる。				